

- 問1 ある都市の特定の地域において、1990年代後半には約300人であった人口が、2010年代後半には6,000人を超えるほどに激増した事例があります。この地域では、以前は工場や駐車場として使われていた場所の多くが、現在は21階以上の高層マンションに変わっています。このような変化をもたらした主な要因として最も適切なものはどれですか。 (2019年 東京都公立入試 類似)
1. ドーナツ化現象による、職住分離を目的とした郊外住宅地の拡大
 2. 鉄道利用などの利便性を背景とした、再開発による居住機能の強化
 3. 食料自給率の向上を目的とした、都市農業のための生産緑地の指定
 4. 地価の下落による、広大な敷地を持つ低層工場の都心部への移転
- 問2 日本の地域別農業産出額の内訳を示した統計において、米や畜産を抑えて野菜の割合が全体の約40%と最も高くなっている地域があります。この地域が、東京などの大消費地に近い利点を活かして、新鮮さが求められる野菜などを生産し出荷する農業の形態を何と呼びますか。 (2026年 秋田県公立入試 類似)
1. 関東地方で行われている近郊農業
 2. 北海道で行われている大規模な畑作
 3. 九州地方で行われている畜産主体の農業
 4. 東北地方で行われている稲作中心の農業
- 問3 日本の諸地域の位置関係や特徴について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
1. 埼玉県は関東地方で唯一、新潟県と隣接しており、その県庁所在地はさいたま市である。
 2. 群馬県は関東地方で唯一、新潟県と隣接しており、その県庁所在地は前橋市である。
 3. 栃木県は関東地方で唯一、新潟県と隣接しており、その県庁所在地は宇都宮市である。
 4. 茨城県は関東地方で唯一、新潟県と隣接しており、その県庁所在地は水戸市である。
- 問4 香取市佐原の歴史的景観が形成された背景として、地理的な条件と歴史的な背景を組み合わせた説明として正しいものはどれですか。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
1. 急峻な山々に囲まれた要害の地であったため、戦国時代の城郭建築を中心とした都市景観がそのまま残された。
 2. 利根川下流の小野川沿いに位置し、江戸時代に物資を運ぶ舟運の拠点として発展したため、商人たちの活気ある町並みが作られた。
 3. 明治時代以降に海外貿易の拠点として開港されたため、西洋風のレンガ造りの建物が並ぶ港町として発展した。
 4. 広大な平野を活用した大規模な稲作を推奨するため、幕府が農民の居住区として計画的に建設した集落である。
- 問5 埼玉県行田市の市街地には、かつての城下町としての構造と、近代以降に発展した地場産業の歴史が共存する景観が見られます。敵の侵入を遅らせる目的で道路をクランク状に曲げた「柵形」と呼ばれる遺構や、明治時代以降に日本最大の産地として発展したある製品を保管するための蔵や鋸屋根の工場が今も残っています。この地域で発展した伝統的な産業として正しいものはどれですか。 (2026年 東京都公立入試 類似)
1. 繊維産業
 2. 足袋製造業
 3. 醤油醸造業
 4. 陶磁器製造業
- 問6 関東地方のある県について、人口密度が1平方キロメートルあたり3 8 0 0人を超えて非常に高い一方で、夜間人口に対する昼間人口の割合を示す「昼夜間人口比率」が約8 9 . 9 %と、1 0 0 %を下回っている理由として最も適切な説明はどれですか。 (2026年 茨城県公立入試 類似)
1. 広大な農地が広がり人口が分散しているため、1平方キロメートルあたりの人口密度が関東地方で最も低くなっている。
 2. 東京都などの近隣都県へ通勤・通学する人が多いため、昼間の人口が夜間の人口よりも少なくなっている。
 3. 製造業が盛んで県外から多くの労働者が流入するため、昼間の人口が夜間の人口よりも多くなっている。
 4. 県庁所在地にすべての機能が集中しているため、県内の他市町村から県庁所在地への移動が極めて多くなっている。
- 問7 日本の空港利用に関する統計において、成田国際空港と東京国際空港（羽田）の合計旅客数が一億二千万人を超えているという事実は、日本の社会においてどのような規模感であると言えますか。最も適切なものを選びなさい。 (2020年 奈良県公立入試 類似)
1. 日本の総人口に匹敵するほどの極めて大きな規模であり、東京圏が世界的な交通の拠点であることを示している。
 2. 成田国際空港の旅客数が東京国際空港を圧倒しているため、千葉県が日本最大の航空交通の拠点となっている。
 3. 2つの空港を合わせても一億人に到達しておらず、アジアの他の主要都市のハブ空港に比べると規模は小さい。
 4. 旅客数よりも貨物取扱量の方が重要視される日本の航空業界において、例外的に旅客数が多い事例である。
- 問8 関東地方の各県の工業的特徴を比較した際、製造品出荷額等の合計が約18兆円と非常に大きく、かつ産業内訳において「化学工業」や「鉄鋼業」の占める割合が他県に比べて高い特徴を持つ県はどこですか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
1. 千葉県
 2. 神奈川県
 3. 埼玉県
 4. 群馬県
- 問9 関東地方の北東部に位置する茨城県において、県庁が置かれている都市として正しいものはどれですか。 (2020年 岐阜県公立入試 類似)
1. さいたま市
 2. 水戸市
 3. 前橋市
 4. 宇都宮市
- 問10 東京都心部の地価が周辺の郊外地域に比べて著しく高くなっている主な理由として、都市の機能と土地利用の観点から最も適切な説明はどれですか。 (2022年 福島県公立入試 類似)
1. 都心部は建物の高さ制限が郊外よりも厳しいため、1階あたりの土地利用料を高く設定する必要があるため。
 2. 都心部には広大な農地や工業用地が確保されており、食料生産や製造業の拠点としての需要が集中しているため。
 3. 都心部には官公庁や企業のオフィス、商業施設が高度に集積しており、土地利用の効率性と経済的価値が高いため。
 4. 都心部は郊外に比べて人口密度が低く、豊かな自然環境を維持するための管理費用が地価に上乗せされているため。
- 問11 ある都市の昼間人口を夜間人口で割り、それに100を掛けて算出する数値を「昼夜間人口比率」と呼びます。東京都においてこの数値が100を大きく超えている状況と、その背景について述べた文として正しいものはどれですか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 近隣都県から流入する通勤・通学者が多いため、昼間の活動人口が夜間の居住人口を上回っている。
 2. 夜間の人口が昼間よりも多くなるドーナツ化現象が加速し、都心部の居住者が急増している。
 3. 東京都の夜間人口が近隣都県よりも少ないため、比率が100を下回る計算となっている。
 4. 昼間と夜間の人口差がほとんどないため、都市機能が一日を通じて安定していることを示している。
- 問12 千葉県の工業出荷額の内訳において、全体の20.8%を占める主要な品目があります。この品目の工場は千葉県北西部の海岸線沿いに集中して立地していますが、その品目として正しいものを次から選びなさい。 (2021年 福岡県公立入試 類似)
1. パルプ・紙
 2. 石油・石炭製品
 3. 輸送用機械
 4. 繊維
- 問13 群馬県などの標高が高い地域で行われている「高冷地農業」の特徴として、記述内容が正しいものはどれですか。 (2025年 福岡県公立入試 類似)
1. 冬に温暖な気候を活かし、平地で収穫が少なくなる1月頃にキャベツなどを出荷する。
 2. 都市に近い利点を活かし、トラック輸送の時間を短縮してレタスなどの鮮度を保ち出荷する。
 3. 夏に降水量が少ない気候を活かし、乾燥に強いオリーブやぶどうを大規模に栽培する。
 4. 夏に冷涼な気候を活かし、平地で収穫が少なくなる8月頃にキャベツなどを出荷する。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 鉄道利用などの利便性を背景とした、再開発による居住機能の強化	1990年代から2010年代にかけての都市部の変化は、工場などの生産拠点が郊外や海外へ移転し、その跡地に高層マンションが建設されるという流れが顕著です。特に複数の鉄道路線が利用できるような場所では、職住近接を求める世帯の需要が高く、再開発によって居住人口が劇的に増加しました。これを土地利用の観点では、工業的な利用から、より高度な居住利用への転換と捉えることができます。
問2	答え 1 関東地方で行われている近郊農業	関東地方は、東京や横浜などの人口が密集する大消費地を抱えています。野菜は鮮度が重要であり、輸送距離を短くできる都市近郊での栽培が有利に働きます。このため、関東地方の農業産出額では野菜の占める割合が非常に高く、約4割に達するという特徴があります。
問3	答え 2 群馬県は関東地方で唯一、新潟県と隣接しており、その県庁所在地は前橋市である。	群馬県は関東地方の北西部に位置し、三国山脈などを通じて新潟県と接しています。関東地方の他の県（茨城、栃木、埼玉、千葉、神奈川）や東京都は新潟県とは接していません。また、群馬県の行政の中心地である県庁所在地は前橋市に置かれています。
問4	答え 2 利根川下流の小野川沿いに位置し、江戸時代に物資を運ぶ舟運の拠点として発展したため、商人たちの活気ある町並みが作られた。	佐原が「北総の小江戸」と呼ばれるほど発展したのは、利根川を利用した舟運（水上輸送）の要衝だったからです。周辺で収穫された米や特産品を江戸へ運ぶため、中継地点である小野川沿いに多くの問屋や蔵が建てられました。このような水運との深い関わりが、川に面して建物が並び独特の歴史的景観を生み出す要因となりました。
問5	答え 2 足袋製造業	埼玉県行田市は、忍城の城下町としての歴史を持ち、江戸時代から足袋の製造が始まりました。明治から大正時代にかけてはミシンの普及により生産量が急増し、日本最大の足袋産地となりました。このため、市街地には製品を保管するための「足袋蔵」や、作業効率を高めるために北側から安定した光を取り入れる「鋸屋根（のこぎりやね）」の工場が数多く建てられ、現在も城下町特有の「枡形」の道路構造とともに独自の景観を形成しています。
問6	答え 2 東京都などの近隣都県へ通勤・通学する人が多いため、昼間の人口が夜間の人口よりも少なくなっている。	神奈川県は東京都に隣接しており、鉄道網の発達によって多くの住民が都心部へ通勤・通学しています。その結果、夜間に居住している人数（夜間人口）に比べ、昼間に県内に滞在している人数（昼間人口）が少なくなり、昼夜間人口比率が100％を下回る「ベッドタウン」としての性格を強く持っています。対照的に、流入人口が多い東京都の昼夜間人口比率は100％を大きく上回ります。
問7	答え 1 日本の総人口に匹敵するほどの極めて大きな規模であり、東京圏が世界的な交通の拠点であることを示している。	成田と羽田を合わせた年間旅客数の一億二千万人という数字は、日本の総人口（約1億2,600万人）に迫る非常に大きな規模です。これは東京圏が世界的に見ても極めて高い航空需要を持つ都市圏であることを裏付けています。東京国際空港（約8,000万人）の方が成田国際空港（約4,000万人）よりも旅客数自体は多くなっています。
問8	答え 1 千葉県	千葉県は京葉工業地域を擁しており、特に石油化学コンビナートや製鉄所が集中しているため、製造品出荷額等に占める化学工業や鉄鋼業の割合が非常に高いのが特徴です。神奈川県（京浜工業地帯）も工業出荷額は大きいですが、千葉県はより重化学工業に特化した構造を持っています。一方、群馬県などの北関東は自動車などの機械工業の割合が高いという違いがあります。
問9	答え 2 水戸市	茨城県の県庁所在地は水戸市です。関東地方の北東部に位置し、江戸時代には徳川御三家の一つである水戸藩の城下町として発展しました。選択肢にある宇都宮市は栃木県、前橋市は群馬県、さいたま市は埼玉県の県庁所在地です。
問10	答え 3 都心部には官公庁や企業のオフィス、商業施設が高度に集積しており、土地利用の効率性と経済的価値が高いため。	大都市の中心部では、中枢管理機能（官公庁や企業の本社）や高度な商業機能が集中しています。限られた面積の土地に対して、多くの企業や商店が進出を希望するため、激しい競争が起こり地価が押し上げられます。これに対し、郊外は主に居住空間としての役割を担い、都心ほどの集約的な土地利用が行われないため、地価は相対的に低くなります。このような地価の差は、都市内部の同心円的な構造を形成する要因となります。
問11	答え 1 近隣都県から流入する通勤・通学者が多いため、昼間の活動人口が夜間の居住人口を上回っている。	昼夜間人口比率が100を超えるということは、その地域に住んでいる人（夜間人口）よりも、日中にその地域で活動している人（昼間人口）の方が多いことを意味します。東京都では、交通網の発達した近隣の県から多くの人々が流入するため、この比率が非常に高くなります。逆に、住宅地としての役割が強い周辺の都県では、昼間に人が流出するため比率が100を下回る傾向があります。
問12	答え 2 石油・石炭製品	千葉県は京葉工業地域の中核を担っており、東京湾沿いの臨海部には大規模な工場が集まっています。特に石油・石炭製品は、海外から輸入された原油を加工するプロセスを伴うため、大型タンカーが直接接岸できる海岸沿いの立地が極めて重要となります。このため、千葉県北西部の臨海部に工場が集中する分布を示します。
問13	答え 4 夏に冷涼な気候を活かし、平地で収穫が少なくなる8月頃にキャベツなどを出荷する。	高冷地農業は、標高が高い場所特有の「夏でも涼しい」という気候条件を最大限に利用しています。統計上、群馬県では3月の出荷量がわずかであるのに対し、8月の出荷量が極めて多くなるのは、この気候を利用して栽培されたキャベツが市場に出回るためです。冬の温暖さを利用するわけではないため、出荷時期や気候の組み合わせに注意が必要です。